

測定する能力	
漢字・語彙力	論理的言語力
論理的読解力	論理的思考力
論理的表現力	

漢字や語彙を使いこなす力。漢字を使って論理的な文章を組み立てる力。

日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。

文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。趣旨を的確に把握し、小説などを客観的に読む力。

文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。

他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》 漢字・語彙力

(40点)

●解答

- 第一問 (1) がりゆう (2) ふうき (3) そな (4) きゅうさい (5) かんらん
- 第二問 (1) 雑穀 (2) 処理 (3) 染 (4) 蔵書 (5) 一存
- 第三問 (1) 兼行 (2) 即発 (3) 中立 (4) 不断 (5) 在民
- 第四問 (1) 皇居 (2) 閑静 (3) 領域 (4) 座右 (5) 未納
- 第五問 (1) 犯罪者のすべてが悪党とは限らない。 (2) こんなミスをするなんて穴があったら入りたい。 (3) 彼は何事もどん欲に吸収する。 (4) 今日の降水確率は五十パーセントだ。 (5) 危機一髪だった。

第四問

- 文脈からふさわしい言葉を選ぶこと。
- (1) 場所に当たる言葉を選ぶ。
- (2) 「静寂な住宅地」とは言いません。「閑静」はひっそりと静かなこと。
- (3) なわばりのこと。
- (4) 「座右」は、いつもそばに置いておくこと。
- (5) 「未納」は、まだ納められていないこと。

第五問

- 主語と述語を先に考えます。
- (1) 「すべてが」↓「限らない」が主語と述語。「犯罪者の」↓「すべてが」「悪党とは」↓「限らない」。
- (2) 述語が「入りたい」で、主語は省略されています。「あつたら」↓「入りたい」というつながりを見つめます。すると、「穴が」↓「あつたら」↓「入りたい」となります。残りの言葉を並べかえると、「こんな」↓「ミスを」↓「するなんて」。
- (3) 「も」「は」という助詞を自立語につけて、文節を作ります。「彼は」↓「吸収する」が主語と述語。目的語が「何事も」。「どん欲に」↓「吸収する」とつながります。
- (4) 「確率は」↓「五十パーセントだ」が主語と述語。「今日の」↓「降水」↓「確率は」とつながります。
- (5) 「危機一髪」という四字熟語を見抜いたかどうか。

《問題Ⅱ》 論理的言語力

(40点)

●解答

- 第一問 (1) (頬の赤い三人の) 男の子 (2) 小娘(は)
- 第二問 (1) 握っている (2) 出来た
- 第三問 (1) まさか (2) ほど (3) こそ
- 第四問 (1) エ (2) ア (3) ウ
- 第五問 (1) キ (2) ア (3) エ (4) オ (5) イ

《問題Ⅲ》 論理的読解力

(40点)

●解答

- 第一問 お日様(が)
- 第二問 すきな方へどこまででも行けるから。
- 第三問 畑や野原
- 第四問 (1) ウ (2) ア (3) イ (4) オ

■配点

- 第一問 各1点 第二問 各1点
- 第二問 各2点 第四問 各2点
- 第五問 各2点

◆解説

- 第一問 (1) 「ふき」と読まないこと。 (2) 「きゅうさい」と読まないこと。 (3) 「きゅうさい」と読まないこと。
- 第二問 どれも小学六年生レベルの漢字なので、確実に書けるように。
- 第三問 主に四字熟語の意味を理解しているかどうか。

- (1) 「締め切り」と関係する言葉。「昼夜兼行」は、昼も夜も休まないこと。
- (2) 「一触即発」は、ちよつとしたきっかけで大事件になりそうなこと。
- (3) 「厳正中立」は、「厳正(正しく厳しい)」と「中立(特定の立場に片寄らない)」を組み合わせた言葉。
- (4) 「優柔不断」は、ぐずぐずして決断が鈍(とん)い。
- (5) 「主権在民」は、主権が国民にあること。

第五問 各2点

- ◆解説
- 第一問 (1) 喊声(かんせい)をほとばしらせたのは、誰か。直前から検討すると、「かれらは」とあります。「具体的」という条件から、それはさらに前の文の「頬(ほ)の赤い三人の男子」だと分かります。
- (2) 「弟たちの労に報いた」のは誰か、その前を探すと、「小娘」だと分かります。

第二問

- (1) この一文の要点を考えると、小娘は頬を襟巻(えりま)きに「埋めながら」↓切符を「握(にぎ)っている」となります。
- (2) 私は、「初めて」↓(忘れる事が)出来た」とつながりますが、五字以内なので、「出来た」が答え。

第三問

- (1) 「まさか」↓「思わなかった」と、言葉のつながりを考えます。
- (2) 「ほど」は、一方の程度が高まるに比例して、他方も高まるという意味を表します。
- (3) 強意の「こそ」。

第四問

- (1) 述語が「過ごした」で、主語の「私は」は省略されています。「今日は」↓「過ごした」、「朝から」↓「過ごした」、「家中の」↓「掃除を」↓「して」↓「過ごした」とつながります。
- (2) 「休息が」↓「必要だ」が主語と述語。「効率の」↓「よい」↓「勉強には」↓「必要だ」、「適度な」↓「休息が」↓「必要だ」とつながります。
- (3) 「母は」↓「喜んだ」が主語と述語。「私が」↓「込めた」、「心を」↓「込めた」とつながることに注意。「込めた」↓「プレゼントに」↓「喜んだ」とつながります。

第五問

- (1) 前の流れをひっくり返しているから、逆接の「ところが」。
- (2) 順番を表しているから、順接の「それから」。
- (3) 付け加えているので、添加の「そのうえ」。
- (4) 「バス」か「電車」かのどちらかなので、選択の「または」。
- (5) 話題の転換の「さて」。

第五問

- (5) ウ
- (6) イ
- (7) エ
- (8) オ
- (9) ア

第六問 イ・カ

■配点

- 第一問 4点
- 第二問 6点
- 第三問 4点
- 第四問 各2点
- 第五問 各2点
- 第六問 各4点

◆解説

第一問

一文の要点は、「お日様が匂いを撒きちらし」、また「雪を照らしました」なので、「撒きちらし」たのは、「お日様」。

第二問

「文中の言葉を使って」とあるので、まづ理由に当たる「文中の言葉」を探すと、直後の「すきな方へどこまででも行けると分かります」。

第三問

直前に「いつもは歩けない黍の畑の中でも、すすきでいっぱいだった野原の上でも」とあります。雪が降って、固まって、一枚の平らな板のようになったので、「畑」や「野原」の上を歩けるようになったのです。

第四問

比喩の問題です。

(1) 「板」は比喩。直前で「大理石よりも堅く」とあり、しかも「空も」と「も」があるので、空も石の板でできていると考えます。

(2) 霜をたとえたものですが、白くて、しかも「ぴかぴかしている」ことから、「ザラメ」だと分かります。

(3) 「それ」をたとえたものですが、「それは直前の「一枚の板」を指しています。しかも、「キラキラキラ光る」ことから、「鏡」だと分かります。この辺りの宮沢賢治の風景描写は独特なものがあります。

(4) 雪が降って、すっかりそれが凍りついた後、柏の木の枝にぶらさがっている、すきとおったものだから、「つらら」。

第五問

子供たちのセリフか、きつねのセリフかをまず考えます。

(5) きつねのセリフで、「お嫁ほしけりや、とってやるよ」の返事です。

(6) きつねが「団子をおれやろか」と言ったことに対して、かん子の返事です。

(7) きつねが「私らは全体いままで人をだますなんてあんまりむじつの罪をさせられていたのです」に対する、四郎の返事です。しかも、「おどろいて尋ねました」とあります。

(8) きつねのセリフで、最後に「私のさしあげるの」とあります。

(9) きつねの紺三郎のセリフで、最後に「いや小兄さんは四年生だからね、八つの四つで十二歳」とあることから、兄さんが十一歳以下かを聞いたことが分か

ります。

第六問

- ア 白一色の雪景色だから、×。
- イ 「比喩を巧みに使い」、「幻想的な世界」とともに○。
- ウ 「誰もが知っている昔話」かどうかは、問題文からは分かりません。

エ きつねは紺三郎。11〜12ページの「だまされたという人は」と人間の話をしている、その一例に甚兵衛さんの話が出ています。また13ページに「あなたの村の」とあるので、清作さんも人間とわかるため、×。

オ 人をだますことについては、きつねの紺三郎は無実だと言っているから、×。  
カ きつねが「兄さんたちはお断わりです」とあることから、○。

\*\*\*

《問題Ⅳ》 論理的思考力 (40点)

●解答

第一問

小学生の視力低下が進む一方、虫歯の割合は減っていることがわかった。(33字)

第二問

人間には、それぞれの生き方、暮らしの形がある。(23字)

第三問

(1) 地震に関するデータや知識は限られている。

(2) 地震の予測には限界がある。

第四問

(1) 食べて・ワクワク

(2) 座る・勉強し

第五問

ぼくはケーキのように甘くておいしいパンを食べた。

■配点

- 第一問 8点
- 第二問 8点
- 第三問 各4点
- 第四問 各4点
- 第五問 8点

◆解説

第一問

冒頭、「小学生の視力低下が進んでいる」が主張で、以下、その証拠となるデータを示しています。

次に、「一方」とあることから、もう一つの主張が来るはずで、それが「虫歯のある小学生の割合は減っています」だと分か

第二問

おじいさんの例から始まって、次にそれを一般化しています。そこで、「人間には、それぞれの生き方、それぞれの暮らしの形があるものだ」が主張だと分かります。

第三問

(1) 述語が「限られて」↓「いる」で、それに対する主語が「データや」↓「知識は」。あとは、「地震に」↓「関する」↓「データや」となります。

(2) まず助詞を自立語につけて、文節を作ります。「限界が」「地震の」「予測には」となります。述語が「ある」で、主語は「限界が」。残りは、「地震の」↓「予測」↓「には」とつながります。

第四問

(1) 「興味があることをどんどんやってみよう。」が一文なので、「食べて」「ワクワク」が不要。

(2) 「失敗してもいいから立ち止まらず進もう。」が一文なので、「座る」「勉強し」が不要。

第五問

「①が要点となる」という条件に注意。そこで、①の「パン」を説明する形に②を変形します。②「ケーキのように甘いパン」となるのですが、これを①に入れると、「甘くておいしい」と文の形を整えなければいけません。

\*\*\*

《問題Ⅴ》 論理的表現力 (40点)

●解答例

未来

過去の歴史的事実は調べれば分かるが、世界がどうなるかはタイムマシンに乗らないと分からないから。

過去の自分を変えることはできないが、将来がどうなるかを知った上で、今を考え直すことはできるから。

過去

将来を知ってしまったのは怖いですが、歴史的な事実を自分の目で確かめるのは価値があると思うから。

これから体験できる未来を見るよりも、タイムマシンで楽しかった出来事をもう一度体験してみたいから。

■配点 各10点

◆解説

設問を正確に読み取り、理解できたかどうかのポイントです。

自分の意見を自由に述べるのではなく、「後の語句」を使って作文する問題です。指定の語句を使う限り、自ずと答えは決められてしまします。

このようにあくまで論理的に考え、正確な日本語で一文を作成する問題なのです。また「過去を選ばなかった理由」「未来を選ばなかった理由」も同時に書かなければなりません。さらに「後の語句を、一つの理由に対して、必ず一つ以上使うこと」とあることから、一文に二つ以上の語句を使う必要があります。